

学生時代を振り返って

新井 崇夫 (No. 4802)

この度、檉の芽会様の返還免除者に選んでいただきました。ありがとうございます。

私の学生時代がどのようなものだったか、どのようにすればより良かったかというお題を頂いています。奨学生の皆様の励みになるようにとも。これは私にとってなかなか難しいテーマだと思います。

私は京都大学で人工知能の勉強をして、これから社会シミュレーションの研究をしていこうと志していますが、京大を受験したのも受かりそうだったからというだけですし、やれ人工知能だのシミュレーションだのを勉強しようと思ったのも単にそれが面白そうだったからというだけです。私の学生生活には、偉い人や自己啓発本を書く類の方がよく語っているような一貫したストーリーなどはありません。

ただ、学生生活の軸がまったくなかったというわけではありません。私の学生生活の軸は、学問を楽しむことと、優秀さを追求することでした。

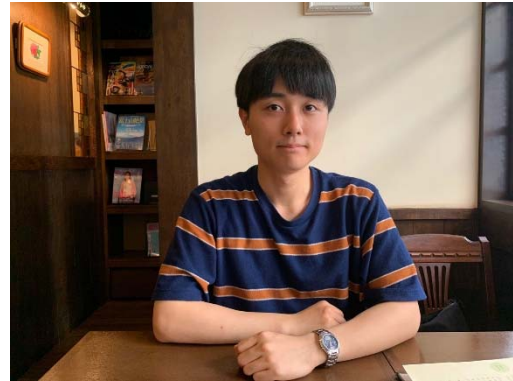
“3 idiots” という有名なインド映画があります。インドの工科大学の卒業生が、失踪した旧友を訪ねて旅をする話です。そこで主人公が繰り返し言っていたことがまさにそのようなことでした。

目先の成績や名誉で自分を奮い立たせることは一つの勝ち筋ではあるのですが、やはり本当の意味で人生を豊かにするのは自分の心を大切にすることだと思います。

一方で、色々な社会のルールが皆さんの前に立ちはだかると思います。例えば、金銭的な苦勞はみなさんの多くが経験したことだと思います。今の世の中は、まるでお金持ちの親を持たない限りは学問をすることを許されないかのようにできています。

皆さんはこのような社会のルールに対し、超然とした態度で反抗していく必要があります。学生にならなくても学問はできるかもしれないし、どんなに仕事が忙しくても大学には行けるかもしれません。自ら資金調達をして研究チームを作ることでもできるかもしれません。

自分なりに学問を楽しんで、優秀であることを追求してさえいればきつとうまくいくと思います。私もまだまだ道の途中ですが、自分の使命を全うできるように頑張りたいです。そしていつか、この手で少しでもこの社会のルールを改めることができるようにします。



(株式会社金融エンジニアリング・グループ)